



# 令和5年度 水生生物生息調査業務 報告書(概要版)

## 河川別調査結果

### 1. 旧中の川 とんぎよ橋



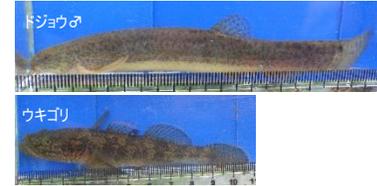
河道全域が整備されており、河道内に大石を配置して流れを変化させ、河岸には植物が繁茂しており、水生生物の生息場として利用されていた。

**魚類 5種類**

モツゴ、ドジョウ、ヨシノボリ属、ウキゴリ、ジュスカケハゼ

**魚類以外 9種類**

カワニナ、サカマキガイ、ミナミヌマエビ、ヌマエビ、スジエビ、モズガニ、キタイトトンボ、ギンヤンマ、シオカラトンボ



### 2. 追分川 追分川宮の沢橋



河岸は整備され、水深は浅い場所が多い。河岸および下流河道内には植物が繁茂しており、水生生物の生息場として利用されていた。

**魚類 5種類**

ウグイ属、フクドジョウ、サクラマス(ヤマメ)、エゾトミヨ、トミヨ

**魚類以外 5種類**

カワニナ、サカマキガイ、ヨコエビ目、ミナミヌマエビ、コオニヤンマ



### 4. 屯田川 みずほ西公園内



河岸は広く整備され、河川内は一部深い場所があるが、平坦で歩きやすい。外来種の確認が多く、人為的影響の大きい地点である。

**魚類 11種類**

コイ(飼育型)、ギンブナ、タイリクバラタナゴ、モツゴ、タモロコ、エゾホトケドジョウ、トミヨ、ヌマチチブ、トウヨシノボリ類、ジュスカケハゼ、カムルチー

**魚類以外 4種類**

ヌマエビ、スジエビ、アメリカザリガニ、ギンヤンマ



### 7. 中の沢川 藻岩北小裏



中央部は整備されており、単調な環境であるが、上流部および下流は流れに変化があり、植物が繁茂する等、水生生物にとって良い生息環境となっている。

**魚類 5種類**

エゾウグイ、フクドジョウ、ニジマス、サクラマス(ヤマメ)、ハナカジカ

**魚類以外 6種類**

カワニナ、ヨコエビ目、モンカゲロウ、エルモンヒラタカゲロウ、コオニヤンマ、シオカラトンボ



### 3. 西野川 西野西公園横



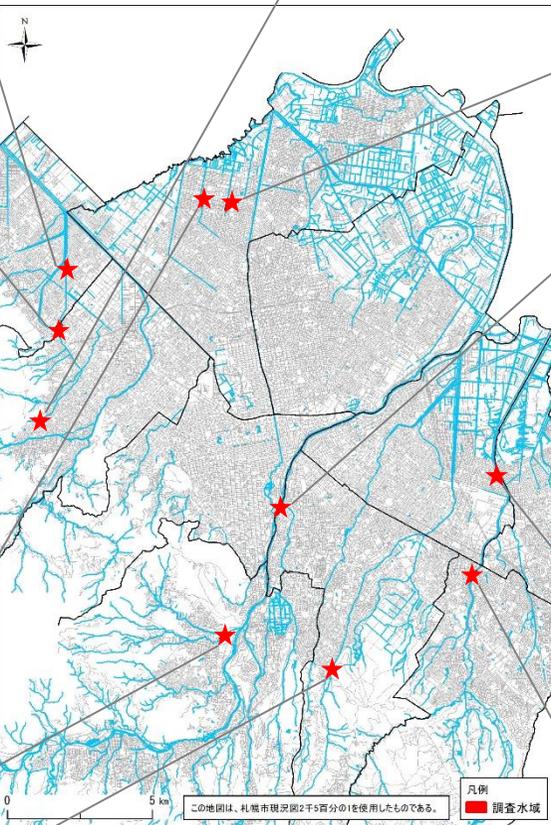
河岸は整備されているが、川幅は狭く、河岸に繁茂する植物が水面を覆うほどであり、水生生物の生息場として利用されていた。

**魚類 2種類**

フクドジョウ、サクラマス(ヤマメ)

**魚類以外 5種類**

カワニナ、サカマキガイ、ニホンカワトンボ、モイワサナエ、コオニヤンマ



### 8. 月寒川 西岡公園内



河岸は広く整備され、河岸には植物が繁茂し、瀬や淵があるなど、水生生物にとって良い生息環境となっている。

**魚類 4種類**

エゾウグイ、ウグイ属、モツゴ、ヌマチチブ、トウヨシノボリ類

**魚類以外 5種類**

カワニナ、スジエビ、ホンサンナエ、コオニヤンマ、コヤマトンボ



### 5. 東屯田川 みずほ東公園内



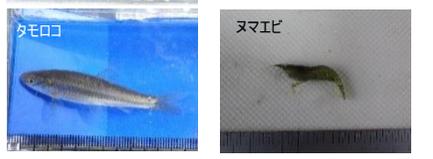
河床が平坦で歩きやすいが、岸際に深みがあり、注意が必要である。外来種の確認が多く、人為的影響の大きい地点である。

**魚類 5種類**

コイ(飼育型)、フナ類、ギンブナ、モツゴ、タモロコ、ジュスカケハゼ

**魚類以外 6種類**

ヌマエビ、アメリカザリガニ、ギンヤンマ、シオカラトンボ、オオコオニムシ、ミズカマキリ



### 6. 豊平川 幌平橋



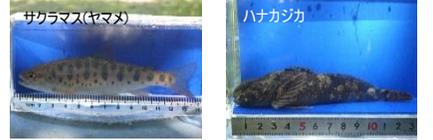
落差工付近は水深があり、流れも速いため注意が必要である。瀬や淵など変化に富んだ環境は、水生生物の生息場として利用されていた。

**魚類 4種類**

ウグイ、ウグイ属、フクドジョウ、サクラマス(ヤマメ)、ハナカジカ

**魚類以外 6種類**

サカマキガイ、エルモンヒラタカゲロウ、ヒラタカゲロウ科、コオニヤンマ、コガタシマトビケラ、キタシマトビケラ、ヒゲナガカワトビケラ



### 9. 厚別川 紅橋



橋脚周辺等の水深が深い場所は注意が必要である。瀬や淵、ワンド等の様々な環境があり、水生生物にとって良い生息環境となっている。

**魚類 8種類**

エゾウグイ、ウグイ、モツゴ、フクドジョウ、エゾトミヨ、ウキゴリ、シマウキゴリ、ジュスカケハゼ

**魚類以外 3種類**

スジエビ、モズガニ、サトキハダヒラタカゲロウ



### 10. 厚別川 北野ふれあい橋



河川へのアプローチは容易であるものの、河岸に急な深みがあるなど、注意が必要である。河床にある崩れたブロックの隙間が、水生生物の生息場として利用されていた。

**魚類 4種類**

スナヤツメ北方種、ウグイ属、フクドジョウ、サクラマス(ヤマメ)

**魚類以外 1種類**

スジエビ

